

新基地建設反対名護共同センターニュース

「現場見て やりきれない思いで一杯！」



写真は抗議船に乗った民商事務局員ら。多くの人は、初めて抗議船からの視察でした。ウミガメが泳ぐコバルトブルーの海と、一方ではテトラポットで囲まれてしまった護岸とその上では土砂を運ぶダンプカーが往来する現場を目撃し、衝撃を受けました。

沖縄県商工団体連合会と傘下の民商事務局員8人が5月8日、辺野古新基地建設現場を抗議船・平和丸から視察し、船長のへり基地反対協・仲本興真事務局長（名護民商会長）から説明を受けました。

現場は衝撃的 たたかう決意新たに

はじめて乗船したSさんは、「護岸にテトラポットがひろがり、土砂を運ぶダンプが行ったり来たりして海の風景が変わっていることにショックを受けた」と話しました。またMさんは「ウミガメのいる辺野古の海の美しさに感動しました。土砂投入の現場にやりきれない思いで一杯です」と美ら海に感動すると同時に民意を無視し、工事を強行する菅政権への怒りを表していました。仲本氏は「百聞は一見に如かず」です。たたかいの現場を見てもらってよかった。コロナ感染に留意し、夏バテにも負けずに、息の長い闘いを不屈に進め、必ず勝利しましょう」と訴えました。（協力・仲本氏）

基地建設強行に怒り 民商事務局員が抗議船で視察

「遺骨混じりの土砂を埋め立てることは人道に反する」 島ぐるみの会が具志堅さんから話を聞く

那覇市内の「安里・大道・松川島ぐるみの会」は8日、那覇市内で遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松氏を講師に「南部の遺骨混じりの土砂を辺野古新基地建設への埋め立て問題」の話を聞く会を20人ほどの参加で開催しました。

具志堅さんは、「南部の遺骨混じりの土砂を辺野古新基地建設の埋め立てに使うことは人道に反する」と3月におこなったハンストはビックリするくらいの反響があった。玉城デニー知事が採掘業者に「遺骨採取しないことを求める」措置命令を出すなど法令上できる事をやってくれた。しかし、今後、「県は新しい条例をつくってさらに規制を強めてほしい」と期待を寄せました。

「全会派一致で意見書決議」翁長県議が挨拶

故・翁長知事の次男・翁長雄治県議が参加、4月15日に県議会が「遺骨を混入した土砂を埋立に使用しないことを求める」意見書を全会一致で決議した経過を報告し、連帯を表明しました。

なお、主催者が「名護共同センター」へのカンパを参加者に訴えてくださり1万5千円余のカンパが寄せられました。



写真上は、具志堅さんの話に耳を傾ける参加者。左は報告する具志堅さん、右は翁長県議



不屈の座り込み2500日

キャンプ・シユワブゲ
1ト前の座り込みが20
14年7月6日に開始さ
れてから100日で250
0日が経過しました。
10日朝、ゲート前で
監視活動を行っていた沖
縄県統一連・瀬長和男
事務局長（写真左端）は「当
時、こんなに長くなると
は思わなかった。しかし、
県民は不屈です。勝つま
であきらめません」と話
していました。

今はそちらを訪ねることはできません。できることはないかと話し合い、この気持ちを僅かですがカンパに託しお届けします。—東京・小金井から

この度、本土のあるグループから名護共同センターにカンパが寄せられました。一緒に届いたお手紙（要旨）を紹介します。

突然のお手紙で失礼します。
雨の日も厳しい暑さの日も辺野古で闘っている皆様、さぞ辛くお疲れのことと思います。友人からそちらの闘いの記録DVDを借り皆様の様子を知らることができました。パレード前での座り込み、必死で抵抗している方々を、冷たく引き抜き、連れ出す警察。日本人が同じ国民を罪人のごとく引きずり出す様子に涙しました。あの警官の中には、おじい、おばあのお孫さんもうらっしゃるのでは。なんとも理不尽なことでしょう。

あの海の底は何年かかっても埋められず、土砂を限りなく流し入れ、多額な費用がかかっているとのこと。あろうことか南部の遺骨が混じる土砂まで使おうとしているとは！例え基地が出来ても利用価値なしとアメリカ側が言っているとも聞きます。なのに、なぜ、工事をやめないのでしょうか。矛盾だらけの政策に腹が立ちます。（中略）

今回も何かできることはないだろうかとお話し合いましたが、今はそちらを訪ねることもできません。この気持ちをわずかにカンパに託しお届けします。（後略）

2021年4月29日
「大人のしゃべり場」n東京・小金井